

# 河北潟流域新聞



発行：NPO法人河北潟湖沼研究所 2022年2月



河北潟では60年ほど前まで漁業が盛んでした。とれた魚は金沢の町中でも売られ、フナ、ボラ、シジミ等がおいしかった、といった思い出を持つ方も多くいます。今は漁業は行われておらず、趣味で釣りを楽しむ方がいるのみで、潟でとれたものを食べる機会はほとんどありません。



金沢市や河北潟干拓地で作られているレンコンはいわゆる「加賀レンコン」、粘り気が強くもっちりとしていて、肉厚です。品種は支那白花という品種で、これ自体は他地域でも作られていますが、この地域の気候と土壌が合わさって独自の食感になっています。

## 食べものが 生まれる場所



「食べもの」は降ってわいてくるものではなく、作る人がいて、作られる場所、生まれる場所があります。河北潟流域は農地が広がっています。また河北潟が干拓される前、汽水湖だった河北潟では漁業も盛んでした。食べるものを生み出す場所として見ると、河北潟流域はとても豊かな地域です。湿地、砂丘、平地、山間、色々な環境があつて、米、麦、野菜、果物、牛乳等色々なものが生み出されています。これらを生み出す農地はどんな場所でしょうか。そして、農地を維持するためには、人手もお金もかかります。施設の維持も必要です。河北潟の沿岸地域では、農業用のポンプ場がたくさんありますが、防災面では周辺住宅地にも関わる施設です。身近な農地の仕組みや問題を知っておくことは、生活を考える上でも大事なことです。

|     |   |
|-----|---|
| 目次  |   |
| 2-3 | 河北潟周辺の農地<br>河北潟流域で活動する人のお話 1 小嶋農園<br>河北潟流域で活動する人のお話 2 Poco a Poco |
| 4-5 | 移り変わる流域の恵み  |
| 6   | 水門、ポンプ場をみてみよう   |
| 7   | 設立準備中・河北潟流域自然再生協議会  |
| 8   | 外来植物のこと   |

# かほくがた周辺の農地



## 河北潟干拓地

低い、泥地

農業のために作られた土地、河北潟干拓地は、広くて平らで大型機械で農業しやすい作りです。埋め立てではなく、堤防で囲み中の水を出して、干上がらせてできました。そのため水面より低く標高はマイナス、延長約十七kmの堤防で囲まれている干拓地内は、水を出すためにポンプが必要で、排水機場が四か所あります。水を入れるのにもポンプが必要な場所があり、揚水機場も四か所あります。

もともとは米を増産するために作られ、土は粘土質でお米を作るのに適した場所です。しかし作られている途中で減反政策が始まったため、土地ができた時にはお米を作ることが制限されてしまいました。最近では制限が緩和され、水田も増えてきています。

## 内灘砂丘

高い、砂地

海と河北潟を隔てる内灘砂丘は、金沢市から内灘町、かほく市まで続き、標高は一番高い所で六十メートル近くあります。水はけのよい砂地の畑ではサツマイモやスイカ等がたくさん作られています。砂丘とは正反対のイメージの水田もあります。地中に耐水性のシートを敷いた「ビニール水田」でお米も作られています。



内灘砂丘にある水田



内灘排水機場



干拓地の広い農地

### 河北潟流域で活動する人のお話 その1

## 小嶋農園 いろいろな楽しさが味わえる農地と農業

河北潟干拓地と周辺農地で農業をする小嶋農園では、色々なものを栽培されています。じねんじよ、大根、ねぎ、トマト、中島菜、菜の花、蕎麦、お茶等の他、ブルーベリー、柿、梅、みかん、パイナップルとバナナを合わせたようなフレイジョアという南米の珍しい果物の木も育てています。たくさん植えています。その多くがミツバチのために植えたもの。小嶋農園ではミツバチを飼い、ハチミツを作っているからです。

養蜂は結構な手間がかかるもので、病気がないか、分蜂していないか等、定期的に養蜂箱の中を時間をかけて確認します。養蜂を始めた年は、一年で五十回ほどハチに刺されていたそうですが、二年目になると刺されても腫れなくなつたとのこと。ハチミツを作るのは大変です。ハチミツは花によつておいや色が変わり、蕎麦のハチミツは黒っぽい色になるそうです。意外なところではセイタカアワダチソウからもハチミツができるそうですが、これはとても匂いがきついのだとか。

農園では農業を使っています。ここにいるミツバチ達のためと、そして自分にかかるのがいやという理由からです。雑草は草刈り機で何度も刈っているからです。

なにとともに楽しみながらやるという

## 河北潟流域で活動する人のお話

農業、遊び、趣味、仕事等色々な形で河北潟流域に関わる活動をしている人にお話を伺っています。

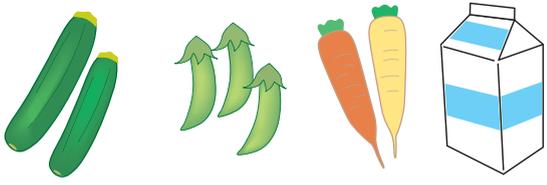
小嶋農園では、畑にいろいろな発見があつて楽しいそうです。防風のために植えたスギの木にミミズクが並んで二羽とまっているのを見つけたり、モスのしわざか木の枝にカエルがさしてあるのを見つけたこともあるそうです。作ったものを味わう、誰かに食べてもらう、農作業中の発見や出会い等、農業の中に色々な楽しみがあるようです。



箱から出入りするミツバチ

花粉を持つミツバチ

ミミズクがいたというスギの木



## 河北潟流域の土地



河北潟の西側は内灘砂丘がのびています。河北潟干拓地は約 1,100ha の農地が広がっています。河北潟の東から南にかけての沿岸部は、低く平らな土地が続きます。さらに東の山手に行くと、津幡から金沢にかけてなだらかな低い山が続きます。南の方には金沢の市街地が広がります。



耕作されていない山間部の農地、外来植物が一面に広がっています。

## 沿岸・平野〜低山部

河北潟沿岸の東から南にかけては低い土地で、特に河北潟に寄ったところでは粘土質の土壌です。水田が続いていて、お米やレンコンが多く作られています。

山手に行くと、緩やかな傾斜に棚田が広がります。能瀬川や津幡川の上流、森下川の上流にある直江谷地区等は、谷内田のきれいな景色が見られます。その反面、高齢化、過疎化で耕作放棄されている農地も増えています。

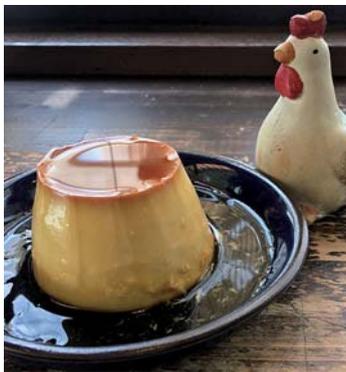
## 河北潟流域で活動する人のお話 その2

### Poco a Poco 農産物と農地の風景から生み出されるおいしくて楽しい場所

ポコ・ア・ポコは河北潟干拓地の真ん中あたりにある小さなお店です。ここではソフトクリームや、プリン、焼き菓子、イチジクやリンゴ等を使った季節のお菓子や農産物が販売されています。ソフトクリームやプリンの材料になる牛乳や卵は河北潟干拓地産のもので、卵は干拓地の畑で平飼いされている鶏のものです。その他の材料も国産のこだわりのものを使われています。商品は手作りのオリジナル商品で、他では買えません。

お店には親子連れからお年寄りまで、様々な年代の人が訪れています。オープン時間の前から待っている常連さんもたくさんいて、干拓地の農家さんの憩いの場にもなっています。

店主の吉田幸子さんは、自分の力で何かをしたいと思い立ち、勤めていた会社を退職後、一人でこのお店を始めました。最初は焼き菓子、ジェラートを販売していましたが、河北潟干拓地というソフトクリームのイメージが大きく、来店される方からソフトクリームはないのか聞かれることも多く、それならソフトクリームも作って販売するようになったそうです。お客さんもだんだんと増え、いまではスタッフもたくさんいます。みんなこの場所が好きで、ここで働きたいと集まってきたそうです。お店ではお客さんとの距離が近く、とても明るい雰囲気です。外には干拓地の雄大な風景が広がっています。この土地ならではのおいしいものと、風景を楽しめる場所です。



河北潟干拓地にある吉田さんの畑の鶏たち。お店にはプリン、シフォンケーキ、ソフトクリーム、クッキーなどさまざまなお菓子があります。(写真提供: 吉田幸子さん)

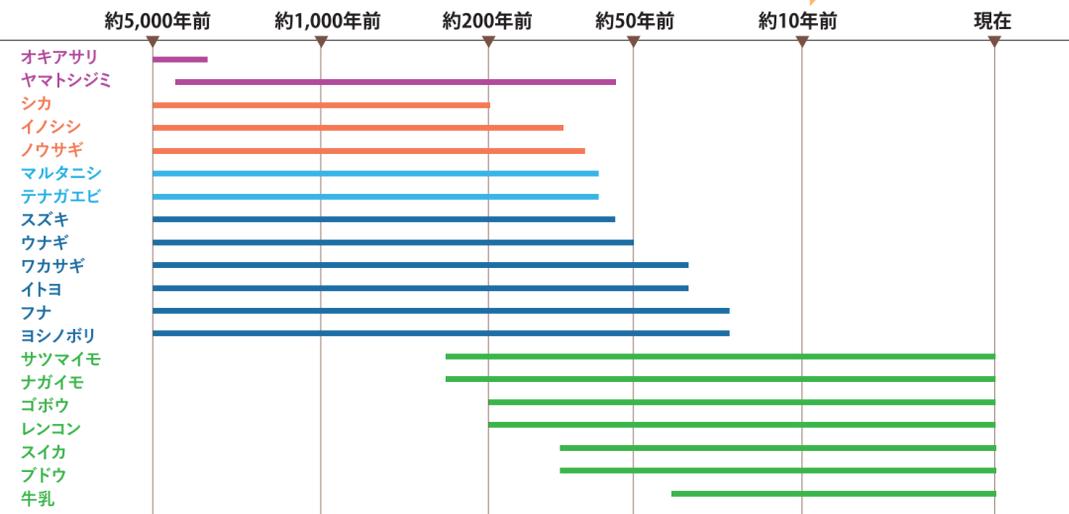
Poco a Poco 河北郡内灘町湖西316  
営業時間10:00~15:00 日曜と月曜定休(夏季は日曜も営業)  
<https://www.facebook.com/pocoapoco2012>



# 移り変わる流域の恵み



河北潟流域でとれ、食べられてきた食材を、利用されていた時代がわかるように年表にしたものです。



参考資料  
 上山田貝塚 石川県河北郡宇ノ気町上山田遺跡調査報告 石川考古学研究会 1979  
 縄文時代の河北潟 平口哲夫 河北潟総合研究4 2001  
 石川県湖沼内湾水面利用調査報告第4巻 石川県水産試験場 1914  
 内灘町史 内灘町史編さん専門委員会編 石川県内灘町役場 1982  
 石川県河北郡誌 石川県河北郡役所 1920  
 津幡町史 津幡町史編纂委員会編 石川県津幡町役場 1974  
 内灘の漁業 内灘町教育委員会社会教育課編 内灘町教育委員会 1989  
 聞き書石川の食事「日本の食生活全集石川」編集委員会編 農山漁村文化協会 1988  
 加賀れんこん <http://www.kanazawa-kagayasai.com/kagayasai/renkon/>  
 北陸地方における明治時代のニホンジカの生息状況 南部久男・石坂雅昭 富山市科学文化センター研究報告24 2001  
 潟湖養殖の時代—石川県における養殖事業の近世近代史 大門哲 石川県立歴史博物館紀要27 2018  
 八田の歴史 川良雄編 八田公民館 1960

## 鰻

ウナギ

明治初期の記録によると、河北潟での魚は地区ごとに魚種や漁法の取り決めがあり、八田では根杓漬、北間や五郎島では専用の小漁具を用いたと思われる鰻取漁によりウナギが捕られていたようです。また、西蚊爪では潜水による鰻手握といった漁法でウナギを捕ることが認められていました。しかし水揚量は少なかったようで、明治中期になると河北潟へのウナギの放流がおこなわれるようになり、漁獲量が増えました。その後、八田ではハツタミズを餌とした延縄による漁もおこなわれました。しかし昭和の干拓事業とともにウナギ漁もなくなり、養殖業者も昭和30年代にはいなくなりました。潟の環境の変化は、ウナギの生息にも影響しているようで、近年の河北潟でのウナギの捕獲記録はありません。

## 蜆

シジミ

昭和の前半に河北潟で一番の漁獲量を誇っており、シジミ漁は当時の地域の経済を支える重要な産業の一つであるとともに、潟縁の住民にとって、自給自足の貴重なタンパク源でした。漁師による本格的なシジミ漁とともに、子供たちや女性によるシジミ採りもよくおこなわれていました。膝くらいまでのところの深さで、きつく締まった硬い砂じりの土のところでシジミが良く採れたそうです。干拓以前の河北潟で採れたシジミは、川の水と海の水が混じる汽水に生息するヤマトシジミでした。現在、河北潟は淡水湖になっていて湖底にはシジミは生息していません。河北潟の周りの川や水路には淡水に生息するマシジミがいて、かつては食用とされていました。

## 河北潟流域の水辺の食材

## 鮒

フナ

魚の中では河北潟で最も多く捕られていた種類で、大規模な根杓漬漁でも小規模な漁でも良く捕られていたようです。流域の川や水路にも生息しており、身近な地域の食材として利用されていました。特に冬に捕れる寒鮒はたいへんおいしく、近江町市場にも出荷されていました。小さいものは甘露煮やぶつ切りにして酢味噌で食べる「算盤」に、大きなものは味噌汁や捌いて洗いにして食べていました。干拓前後に周辺農地で農業が使われだしたことや水質悪化が進んだために、地元の人はほとんど食べなくなりました。

主に食べられていたのはギンブナという種ですが、その他にオオキンブナという種がいて、こちらの方が味が良かったということです。今では河北潟流域の絶滅危惧種になってしまいました。

## 蟹

モクズガニ

モクズガニは、漁業対象種としては扱われておらず、過去の記録があまりありませんが、河北潟流域では昔から食べられてきた食材だと思われます。今でも一部のファンから愛され続けている河北潟流域の食材です。甲羅の幅は6~7cmになり、はさみに濃い毛が生える大きなカニです。純粋な淡水ガニではなく、繁殖の際には海へと下り、海で産卵した親はそのまま死んでしまいます。孵化した幼生はプランクトンとして海で水中を漂いながら成長し、やがて変態して稚ガニとなり、成長するにつれ川を遡上していきます。

かなりの長距離を遡上するようで、河北潟流域の上流域でもみることが出来ます。河北潟から小さな水路まで生息していて、河北潟流域をいちばん行き来している生物かも知れません。

## 縄文時代



当時の河北潟北岸に位置する上山田貝塚からは、淡水産の貝として、イシガイ、タニシ類、シジミなどが多く出土していますが、海水産の貝であるアサリ、ハマグリ、カキなどの貝殻も出土しています。その他、クロダイ、マダイ、スズキ、コイ、フナの骨、アシカ、クジラ、サメ、ウミガメ、シカ、イノシシ、ウサギ、キツネ、タヌキなども確認されています。

このことから、河北潟は海水が入る潟だったこと、河北潟の海産の魚介類の他に周辺の淡水及び汽水域の魚介、里山の動物などが食されていたことが分かります。

## 干拓前まで (1960年代以前)



河北潟では、江戸時代から漁が盛んだったことがいくつもの文献から伺うことができます。河北潟沿岸の各地域ごとに、それぞれ多様な漁が営まれており、文化二年(一八〇五)には、地区ごとに細かく漁具や漁法が定められました。また明治時代の半ばにはコイやウナギの種苗放流が始まりました。干拓前の昭和三五年頃は、ウナギ、フナ、ヤマトシジミ、ワカサギなどが漁獲量の上位を占めていました。

河北潟の周りには田んぼが多く畑は少ししかありませんでしたが、森下川沿いではゴボウやナガイモの栽培が盛んで、「森下牛蒡」のブランド名がついていました。また古くから小坂地区を中心にレンコン栽培が行われており、幕末時代には「大樋蓮根」と呼ばれ加賀の国の重要な産物となっていました。

## 現在



干拓事業により縄文時代から続いていた潟漁は途絶えました。一方で、干拓地に生まれた新しい農地では、畑作を中心に多様な作物が作られるようになりました。麦と大豆の二毛作を中心に、多様な野菜やこれまで砂丘地で生産されてきたスイカやダイコン、サツマイモなども栽培され、一大産地となりました。小坂から入植した農家によりレンコン栽培も盛んにおこなわれています。果樹栽培もされており、リンゴ、ナシ、モモ、ブドウなどの直売所もたくさんあります。一方、河北潟の周辺や流域の平地は優良な水田地帯となっています。また、畜産農家が入植し、生乳や、アイスクリーム、ヨーグルトなどの生産がおこなわれています。水産物は採れなくなりましたが、農産物は多様な地域となりました。

# 河北潟流域の水門、ポンプ場をみてみよう

## 排水機場って？

たぐさんの川や水路が流れ込んでいる河北潟ですが、自然に河北潟に流れ込むのではなく、水門で区切られ、ポンプで流れが管理されているところもたくさんあります。排水機場（ポンプ場）と呼ばれているこの施設は、川や水路の水を強制的に流すことができます。なぜこのような施設が必要なのでしょう。

## 農業用水を確保

水門やポンプの大きな役割は、農業用水を調整することです。田んぼに水を入れる用水の水位を調整して、必要な時期に農地に水が行き渡るよう、管理されます。また逆に田んぼから排水しやすいように排水路の水位を下げるような調整もされます。



水門

## 周辺住宅地を水害から守る

排水機場の役割として、農業用水の調整と同じくらい大切なことが、水害を防ぐことです。田んぼや畑など農地を守ることはもちろんですが、最近では低地にある農地が住宅や商業施設等に置き換わってきている場所もたくさんあり、それらを守ることも大きな役割を果たしています。河北潟周辺はもともと低い土地で、ここに暮らすことは、常に水害のリスクと隣り合わせであるという事です。大雨の時には、水害が起こらないよう、川や水路の水位が上がらないように排水機場がフル稼働しています。排水機場は、農業はもちろん、暮らし、防災とも関係の深い施設です。



排水機場

## 淡水を保つための流れにくい構造

大雨の時以外でもポンプでの排水が常になっている場所があります。河北潟は現在淡水湖ですが、これを保つために海水が入らないよう日本海より水位を高くするように決められています。このため、日本海の潮位が高い時は河北潟の水位も高くなり、河北潟につなぐ川では、河口の水門が閉じられ、ポンプで排水量が調整されている川もあります。流れが弱くなった川は水質がわるくなりやすく、また増水した時は対応が難しくなります。

## 設備の老朽化と更新工事

現在の河北潟周辺にある水門、排水施設（ポンプ場）は、一九六三年からの国営河北潟干拓土地改良事業に合わせて作られたものも多く、それらは設置から四十年前後経過しています。古くなった排水機場や防潮水門、関連する管理施設の設備を更新するために、現在、工事がすすめられています。工事は二〇一九年から始まり、二〇三一年までの期間で行われ、国の事業として三九〇億円の予算がついています。設備の耐用年数はおおよそ三十年です。つまり更新後、三十年たつと再度の更新が必要となります。手間とお金が永続的にかかる仕組みです。



水門に溜まるゴミ

## 水門に溜まるゴミ

多くの水門では、水と一緒にゴミがせき止められています。水門前にもものすごいゴミだまりができていて、光景を見たことがある方も多いいのではないのでしょうか。このゴミの処理にも手間やお金がかかります。ひどいところでは、一週間に一度はゴミの回収が必要な排水機場もあるそうです。上流の町中で捨てられたゴミが、流されてきています。また通行量の多い道路沿いにある水路では、道路から直接捨てられたと思われるゴミが多くみられ、こちらも水門付近にたまっていきます。

# あなたの理想の潟、川、水路はどんな形？

## 構造が変わって 変化したこと

河北潟は汽水から淡水になり、流域の川や水路には水門やポンプ場が増え、水の流れ方も変わりました。構造がひとつ変わると、関連する様々なものが良いほうにも悪いほうにも変化します。河北潟ではどのように変化したでしょうか。

農業では水位管理がしやすくなり、排水設備が整ったことで格段に農作業がしやすくなりました。大きく整備された圃場では、農作業に高価な大型の機械が必須になりました。水門やポンプで水管理はしやすくなりましたが、水路や川の連続性が絶たれて、生きものが行き来できなくなり、かつてたくさんいた生きものは減少傾向にあります。水害が起こりにくくなりましたが、設備の維持には常にお金がかかるようになりました。



## あなたの理想の 水辺の形は？

二〇一九年に河北潟流域の八地域で、住民を対象に河北潟に関するアンケート調査を実施しました。その中で、「川や水路を含めた河北潟流域がどのような環境になってほしいですか」との質問では、「水がきれいでゴミがない」という回答が多くありました。そして「動植物が多く、生物多様性のある川や湖」、「安全に水辺に親しむことのできる場がある川や湖」といった回答も同じくらい多くありました。

みなさんの理想の水辺の環境はどのような形でしょうか？水質が良い、暮らしの安全が守られる、農業がしやすい、生物多様性が守られる、水辺で遊べる、いろいろな側面があります。また河北潟と一口に言っても、地点によって特性があり、何を優先したいかによって、どこまで理想に近づけられるかが、違ってきます。今の水辺の良い所と悪い所、残したいところと改善したいところ、自分の理想の水辺の形、これらを河北潟の周りに住む一人一人が考えてみると、どんな形がでてくるでしょうか。



## 持続可能な……

人もお金も、資源は限りがあります。自然環境も対象や使い方によっては再生せずに終わってしまいます。限られた資源をどう振り分けて、どんな水辺の形を作るとよいか、考えることで、より良い持続可能な地域に近づくことができるのではないのでしょうか。

まず一人一人が自分の理想を考え、そして地域の中で話し合っていくと、地域の理想の形が見えてくるはず。限られた資源からより大きな利益、恵みを享受できる、豊かな地域に近付けます。自分がより豊かに暮らすことができる、理想の水辺の形を考えてみてください。



## 設立準備中：河北潟流域自然再生協議会

たくさんさんの川や水路とつながる河北潟は、その環境を良くしようとすると、ひとつの場所だけで保全活動に取り組みではなく、連携した取り組みが必要です。毎年4月に行われる河北潟クリーン作戦でも、川や水路から流されてきたと思われるペットボトルや缶などが大量に拾われています。一か所だけで拾い続けても、流される前の元の場所での対策がなければゴミはなくなりません。水質改善や防災の面から見ても、連携して取り組むことで、より大きな効果をあげることが期待できます。

流域全体で、問題や目的を共有し、保全活動を進められる仕組みとして、「河北潟流域自然再生協議会」の設立を目指しています。現在、地域の団体や行政に参加を呼び掛けているところです。河北潟流域は広く、場所や関わる立場が違えば、見える課題や目指す形も少しずつ違ってきます。課題を共有しながら、よりよい流域になるよう話し合える場を作りたいと考えています。

趣旨に賛同し、参加いただける方を募集しています。ご興味がありましたら、河北潟自然再生協議会事務局までお問い合わせください。



連絡先  
河北潟自然再生協議会事務局  
メール saisei@nbs.jpn.org  
電話 076-288-5803



チクゴズズメノヒエ(右上)と毎年11月の除去活動

# 外来植物のこと

## 外来植物って？

もともとその土地になかったのに、何かのきっかけでやってきて、そこで育つようになった植物です。靴の裏や工事の機械、何かの荷物にくっついてきて、野生化して広がっていきます。植えることを目的に運ばれてくる等の場合もあります。問題になるほど増えるものもあれば、そうでもないものもあります。もともとあった植物を駆逐してしまつ、人や他の生きもの、構造物等に何らかの被害を及ぼす場合等は問題になります。

## 広がる場所

河北潟周辺で問題になる外来植物は、護岸された堤防や水路、道路沿いなど、単調な環境が続く場所に広がっていることが多いです。他に競合するものがない場所ができれば、入りこんで広がっていきます。

## チクゴズズメノヒエ

北アメリカ南部原産のイネ科の多年草です。茎は地上を這って伸びていき、湿地や水路に入ると大きな群落になります。河北潟地域では一九九五年頃から見られるようになり、数年で爆発的に増加しました。「チクゴ」は漢字で書くと筑後、日本では筑後地方で最初に見つかったため、この名前になりました。河北潟周辺ではよく水路や川岸に広がっています。皆さんの身近な川や水路にも群落が広がっているかもしれません。夏の川で、あれ？何か島みたいなものが水面上に広がってどんどん大きくなっている、と思つたら、それはもしかしたらチクゴズズメノヒエの群落かもしれません。水面全体を覆って水が流れなくなったり、悪臭がしたり、ポンプにまつたり等の被害が起こることもあります。水路が増えすぎて障害が起るため、お金をかけて、重機を使って毎年大群落を除去をしているところもあります。

## 外来植物除去活動

河北潟周辺では毎年十一月頃、農家、ボランティア、学生、NPO等が協力して、外来植物除去活動を実施しています。機械を使った除去と同時に、手作業による地道で細かな作業も行つことで、より効果的な対策ができます。除去活動を継続している所では、外来植物が少なくなり、成果も出ています。活動は秋にウェブサイト等でご案内していきます。ぜひご参加ください。

## よくみる外来植物

### セイタカアワダチソウ



北アメリカ原産の多年草。秋に黄色い花を咲かせます。茎はとても固いです。高さが4メートル以上になるものもあります。黄色い花は染色の材料にもなります。

### オオキンケイギク



北アメリカ原産の多年草。5月～7月頃に黄色い花を咲かせます。繁殖力が強く、持ち帰ったり栽培したりすることが禁じられている「特定外来生物」に指定されています。

## みつけた時はどうする？

- 根から抜き取り枯らす  
根っこから抜き取って、コンクリート面等の上で枯らしてから捨てます。
- 種が落ちる前に刈り取る  
根が固かったり長く伸びていたりして、抜き取りが難しい場合は、種が落ちる前に刈り取ります。

### 大発生して消えていった・ホテイアオイ

ホテイアオイは南アメリカ原産の多年生の浮遊植物です。2002年の秋、河北潟西部承水路で大発生し、ひどい所では1株の草丈が70cmから1m程度の巨大な群落に埋め尽くされました。地元の小学生やNPOによる除去活動も行われましたが、最終的には県の予算で重機で取り除かれました。ところが翌春、河北潟湖沼研究所のボランティアメンバーが確認したところ、数株の取り残された株があり、その場で直ちに除去しました。その後、大量発生は起こっていません。

外来植物の除去では、大規模な除去後、細かな確認や除去作業を怠らないことで、除去の効果があがっていきます。



## 河北潟流域新聞と一緒に作りませんか？

この紙面をいっしょにつくって下さる方を募集しています。河北潟流域の自然環境、環境問題、自然と人との関わり、生きもの、植物、昔の暮らし等にご興味がある方、ぜひご参加ください。特別な技術や知識等は必要ありません。活動日時等は相談して決めていきます。ご興味があれば、河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。

## ご感想やご意見お待ちしております

河北潟流域新聞 第2号 2022年2月発行 制作:NPO法人河北潟湖沼研究所  
〒929-0342石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9 E-Mail: info@kahokugata.sakura.ne.jp

\*活動やイベント情報も発信しています。



河北潟湖沼研究所  
ホームページ



Instagram



twitter



Facebook



河北潟流域  
ウェブサイト

